

Title	首長 - 自治体経営革新にみるリーダーの役割 -
Sub Title	
Author	上野雄介(Ueno, Yuusuke) 守島基博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1489号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1489

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	守島 研究会	学籍番号	89828116	氏名	上野 雄介
(論文題名)					
<h1>首 長</h1> <p>—自治体経営革新にみるリーダーの役割—</p>					
(内容の要旨)					
<p>この論文は、日本の地方自治体の首長のリーダーシップをテーマとしている。</p> <p>我が国の地方自治体はいま、大きな変革を求められている。日本経済が低成長に移行する一方で、高齢化や情報化など社会構造の変化は急速に進みつつあり、それに伴って市民が行政に求めるニーズも大きく変容しているのである。こういった変化に自治体が機動的に対応するためには、行政組織の構成員自身が意識を改革し、住民の生活価値向上を第一とする思考へと転換することが急務であるが、こういった変革を仕掛けることができるのは、住民による直接選挙によって選出され、行政組織の外部から組織の長となる首長にほかならない。</p> <p>本論文は、革新的な取り組みを行なっている首長として注目されている 4 人の市長と、その下で働く職員へのインタビュー調査を通じて、地方自治体の経営革新における首長の役割を考察したものである。</p> <p>インタビュー調査からは、以下のような知見が得られた。</p> <p>首長が自らの意図するような変革を実現できるか否かは、就任から半年程度の間、職員の意識に強い働きかけを行なうことができるかにかかっている。職員側も新しい首長に対しての距離を注意深く測っているこの時期に、勇気を持って行動できるか否かが変革実現への重要な第一歩である。</p> <p>一方で、継続的で地道な取り組みも欠かせない。行政組織に長年染み付いた習性は、一朝一夕には変わらない。首長は、小さな改善、一見くだらないと思われるような改革でも、強い意志を持って取り組み続けることによって、少しずつ職員の意識が変わっていくのである。</p> <p>組織の中に変革の先兵を見出し、育てることも重要である。首長がたった一人で大きな変革を全うすることは困難であるし、変革の範囲やスピードにも限界がある。行政組織の中にも、変革をリードする能力・意欲のある人材は埋もれており、彼らを見出し、育てていくことによって、彼ら自身が組織内で変革をリードしていく首長のエージェントとして自律的に機能し始めるのである。</p> <p>この研究を通して、これからの地方自治体の変革を担うリーダーに望まれる資質としてあげられるのは、マーケティングマインドと組織マネジメントの素養、そして失敗を恐れず自ら変革にチャレンジし、行動していく勇気である。</p>					